

令和4年度

## 学校関係者評価 報告書

評価期間

自：令和4年4月1日

至：令和5年3月31日

令和5年6月21日

専門学校日本デザイナー学院

本報告書は平成25年3月に文部科学省生涯学習政策局の作成『専修学校における学校評価ガイドライン』及び、特定非営利活動法人私立専門学校評価研究機構の作成『第三者評価システムの概要 Ver 4.0』に準拠し実施した。

**【学校関係者評価委員会】**

**委員長(教育関係者代表)**

川村 順一(文京学院大学 経営学部 客員教授)

**委員(業界関係者代表)**

長田 智行(株式会社シフカ 代表取締役)

**委員(地域代表)**

伊藤 直子(東急株式会社 渋谷開発事業部 開発計画グループ)

**委員(卒業生代表)**

楠原 幸時(校友会 副会長)

**事務局**

野口 朝夫 (校長)

長坂 大輔 (事務局長)

銭谷 裕子 (教務課長)

川寄 美和 (総務課)

## 目 次

1. 学校の教育目標	P 3
2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画	P 3
3. 点検項目の評価結果	P 3～ 12
(1) 教育理念	P 3
(2) 学校運営	P 4
(3) 教育活動	P 5
(4) 教育成果	P 6
(5) 学生支援	P 7
(6) 施設整備	P 8
(7) 学生募集	P 9
(8) 財務	P 9
(9) 法令順守	P 10
(10) 社会貢献	P 11
(11) 国際交流	P 11
4. 学校関係者評価委員の評価結果について	P 12
(1) 教育目標	P 12
(2) 財務評価	P 12
(3) 一般的評価	P 12

## 1. 学校の教育目標

専門学校日本デザイナー学院は、高度に進歩する産業社会において生活と文化に携わる有能なクリエイターを養成することを目的とし、その職能上必要とされる技能を履修させ教養を積み、同時に人間形成に努め、社会人としての自覚と責任をもつ人材の育成を使命とする。

## 2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- 1) 社会貢献の意識を高め、コミュニケーション能力を養うことを目的とした学生活動に対する支援を行う。
- 2) クリエイティブ業界と学生のニーズを反映し、バランスのとれたカリキュラム編成を行う。

## 3. 点検項目の評価結果

自己点検・評価結果(4…適切 3…ほぼ適切 2…やや不適切 1…不適切)を基に学校関係者評価委員会で点検・評価を行った。

### (1) 教育理念に関すること

評価項目		適切…4	ほぼ適切…3	やや不適切…2	不適切…1
1-1)	教育理念・教育目標は示されているか	④	3	2	1
1-2)	学校の特色は示されているか	④	3	2	1
1-3)	学校の将来構想は示されているか	④	3	2	1
1-4)	学校の理念・目的・特色などが学生・保護者に周知されているか	④	3	2	1
1-5)	各科の教育目標、人材育成像は学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	④	3	2	1

本校の教育理念は、『「超実践教育サービス」の提供を通して自立的で個性豊かなクリエイターを育成し、社会に新しい価値を創造し、共に成長する』(Real Education=実践に即した教育)としている。「生活と文化に携わる有能なクリエイターを育成する」ことを目的とし、昭和40年4月1日に創立して以来、57年間、その精神を受け継ぎながら専修学校制度の範疇で教育事業を継続している。本校の特色は「基礎から丁寧な指導」「授業時間の約8割が実技実習科目」「企業や地域との実践的なコラボレーション」であり、入学してすぐに行うスターティングワークショップは、コミュニケーションを主体としたプログラムで無理なくスタートできるようにしている。また「職業教育」と「キャリア教育」にも力を入れている。

専門知識・技術の習得と並行してプレゼンテーション能力を養う作品発表会、デビューのための出版社編集部による「作品添削会」「持ち込み企画会」等の教育手法を取り入れるなど、学生の目標達成の為に様々な企画を行っている。常に新たな挑戦を行い、大きく変化する社会や世界に通用する感性豊かな技術者の育成を目指している。

学校の理念・目的・特色は、入学前の学校説明会・学校案内書・オフィシャルサイトに記載し周知している。学生に対しては「学校要覧」に明記し入学後のオリエンテーションにおいて周知している。保護者に対しては入学時において配布する資料に明記し周知している。

◎学校関係者評価委員会コメント・質疑

※「教育理念に関すること」については評価者からのご意見はありませんでした。

(2) 学校運営に関すること

評価項目		適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1			
2-1)	運営方針は定められているか	④	3	2	1
2-2)	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	④	3	2	1
2-3)	運営組織や意思決定機能は効率的なものになっているか	④	3	2	1
2-4)	人事や給与での処遇に関する制度は整備されているか	④	3	2	1
2-5)	意思決定システムは確立されているか	④	3	2	1
2-6)	業界や地域社会に対するコンプライアンス体制が整備されているか	④	3	2	1
2-7)	教育活動に関する情報公開が適切になされているか	④	3	2	1
2-8)	情報システム等による業務の効率化が図られているか	④	3	2	1

運営組織・意思決定機関である理事会、評議員会を定期的を開催している。運営方針に沿って策定された事業計画を理事会、評議員会の場で承認し、実行している。

人事考課制度については、目標管理制度を導入している。年度初めに職員 1 人ひとりが目標を設定し、達成度・結果を踏まえて人事考課を行っている。この人事考課に基づき昇給および賞与を決定している。

職員採用、試用期間、懲戒処分、解雇基準、昇格降格制度については就業規則で定めている。等級別俸給・各種手当は、給与規程で定めている。

意思決定システムについては、各部署の責任者が、その責任範囲に該当する案件については意思決定権限を持つ。自らの責任範囲を超える案件は上申して上司の判断を仰ぐ。特定の案件の意思決定については稟議制を採用している。

教育活動に関する情報公開については、オフィシャルサイトや印刷物などで行っている。

◎学校関係者評価委員会コメント・質疑

■業界の動向や社会情勢等の情報収集を行い、最新の情報に基づいた検討結果を踏まえながら教育理念を指針とした授業運営を行っていく。(事務局・銭谷)

(3) 教育活動に関すること

評価項目		適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1
3-1)	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④ 3 2 1
3-2)	カリキュラムは業界の人材ニーズに対応しているか	④ 3 2 1
3-3)	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④ 3 2 1
3-4)	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	④ 3 2 1
3-5)	定期的カリキュラムの見直しはなされているか	④ 3 2 1
3-6)	関連分野における実践的な職業教育が体系的に位置づけられているか	④ 3 2 1
3-7)	成績評価の基準は明確になっているか	4 ③ 2 1
3-8)	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	④ 3 2 1
3-9)	授業評価は実施されているか	④ 3 2 1
3-10)	資格取得等に関する指導体制やカリキュラムはできているか	④ 3 2 1
3-11)	人材育成目標の達成に向けて授業を行う講師を確保しているか	④ 3 2 1
3-12)	関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務を含む)を確保するなどマネジメントが行われているか	④ 3 2 1
3-13)	関連分野における先端的な知識・技能等を取得するための研修や教員の指導力育成や向上のための取組が行われているか	④ 3 2 1
3-14)	職員の能力開発のための研修等が行われているか	④ 3 2 1

業界の人材ニーズに対応できるよう様々な関連分野の企業・業界団体と連携し、意見をカリキュラムに反映させている。また、講師と連携を保ちながら定期的カリキュラムの見直しを行い、より実践的な職業教育に努めている。全学科共通科目であるホームルーム内において、キャリアデザイン教育を行っている。

成績評価・単位認定に関しては定められた基準に従っており、その基準は「学校要覧」に示されている。授業の評価に関しては、学生による授業アンケートを年2回(前期末・後期末)実施しており、講師にフィードバックアンケート結果を授業に反映・活用している。関連分野の先端的な知識・技能取得や指導力の向上のため、定期的に教職員への研修を実施している。

◎学校関係者評価委員会コメント・質疑

■成績基準についてのルールを講師へ明確に伝えていく。(事務局・銭谷)

■AIについて学生にどう教えていくか？(川村委員長)

→AIを使いこなせるように教育していく。ただし、AIを使用した場合には使用した旨を申告する等のルールが必要。(事務局・銭谷)

→学ぶ内容や方向が変わってくると予測している。著作権の問題もあり、講師会でも議題にあがる。(事務局・野口)

■今の若者は何を考えているか、何を夢見ているか、何を望んでいるかを知りたい。(長田委員)

→オペレーターでもいいという学生が多くなってきている。自分でデザイナーになれないと決めつけている学生がいる。(事務局・野口)

→情報収集に長けており、相対化が上手いが突出する学生が少なくなっている。また、インターネットの普及による情報過多や世界とつながりやすくなったことで比較対象が増え、自信をもつことが難しくなっている。(事務局・野口、長坂、銭谷)

→コミュニケーションに長けていて営業スキルが高いオペレーターを目指す学生が増えている。(楠原委員)

(4) 教育成果に関すること

評価項目		適切…4	ほぼ適切…3	やや不適切…2	不適切…1
4-1)	就職率を向上させるための施策は図られているか	4	3	2	1
4-2)	資格取得を向上させるための施策は図られているか	4	3	2	1
4-3)	退学者を減らすための施策は図られているか	4	3	2	1
4-4)	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	3	2	1
4-5)	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4	3	2	1

就職指導にあたっては、クラス担任とキャリアセンターが連携して学生個々の希望や適性を把握し、学生に合った企業の斡旋を行うことで就職率の向上に努めている。

デビュー希望者については講師と連携を保ち、出版社編集部による「作品添削会」などを活用しながら多くの学生をデビューに導いている。

欠席者に対しては、クラス担任により早期に連絡し個別指導を行うことで、退学率の低減を図っている。

卒業生の活躍及び評価は、卒業生本人、校友会、出版社、企業等との連携を保つことで情報の収集に努めている。また、入学案内書などの印刷物やオフィシャルサイト、オウンドメ

ディア、学内の掲示板、校友会のメールマガジン等において卒業生の受賞や個展、グループ展などの案内を定期的に行っている。

◎学校関係者評価委員会コメント・質疑

■資格取得については、通常授業に加え夏季集中授業などでも対策講座を実施し、取得率向上をはかっている。(事務局・銭谷)

■卒業生の情報を把握するためのシステムを構築していく。(事務局・銭谷)

(5) 学生支援に関すること

評価項目		適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1			
5-1)	就職に関する支援体制は整っているか	④	3	2	1
5-2)	学生相談などの支援体制はどうか	④	3	2	1
5-3)	学生への奨学金等の経済的支援はどうか	④	3	2	1
5-4)	学生の健康管理はどうか	4	③	2	1
5-5)	課外活動に関する支援体制は整備されているか	4	③	2	1
5-6)	学生寮等の支援体制は整備されているか	4	③	2	1
5-7)	保護者と適切に連携しているか	④	3	2	1
5-8)	卒業生への支援体制はあるか	4	③	2	1
5-9)	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	④	3	2	1
5-10)	高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	④	3	2	1

企業や求人に関する情報を検索、閲覧できるキャリアセンター公式のWEBサイトを提供し、在学学生及び卒業生の就職活動を支援している。本校の進路の大きな特徴であるデビューに向け、出版社編集部による「特別講義」「持込み企画会」「作品添削会」などの企画運営や、コンテスト情報提供など様々な支援を行っている。

学生相談については、クラス担任が定期的にカウンセリングを行い、保護者とも連絡を密にして問題解決に当たっている。留学生については、留学生担当者を配し、修学・生活支援を行っている。

経済的な支援体制としては、本校独自の特待生制度をはじめ、公的な制度も適宜紹介・斡旋している。寄附等を財源とする基金を運営しており、新型コロナウイルスの影響や天災等による家計急変学生へ貸与している。

学生健康管理について、学校保健安全法に基づく定期健康診断を毎年4月に実施している。また、健康相談が可能な校医も配置している。

高等学校等と連携したキャリア教育・職業教育の取り組みとして、出張体験講座や業界説



明会などを実施している。

◎学校関係者評価委員会コメント・質疑

■社会のニーズとは何か？（川村委員長）

→マルチタスクな人材が必要とされている。AI を上手く使いこなす人材を求めているか、デザイン思考ができるデザイナーを求めているか等、業界のニーズを踏まえたカリキュラムを構築していく。

■カリキュラムの中に産学協同プロジェクトをいれている。企業と連携して学んでいくことで実際の職業の疑似体験ができ、コンセプトの伝え方、ニーズのくみ取り方等、過程が分かるカリキュラムにしている。（事務局・長坂）

(6) 施設設備に関すること

評価項目		適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1			
6-1)	施設・設備はカリキュラムに対応出来ているか	④	3	2	1
6-2)	学内外の実習設備、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	④	3	2	1
6-3)	防災体制は整っているか	④	3	2	1

施設・設備として、木工室や撮影スタジオ、アクティブラーニング室等実習設備を整えている。

防災対策については、施設の法定消防設備点検、建築設備点検を行っている。災害時の帰宅困難者への支援対策として保存食糧、保存飲料水等の災害備蓄品を常備するとともに、学生・教職員への安全対策の徹底を図っている。また、渋谷区帰宅困難者会議にも毎回出席し情報の収集や共有に努めている。

◎学校関係者評価委員会コメント・質疑

※「施設設備に関すること」については評価者からのご意見はありませんでした。

## (7) 学生募集と受け入れに関すること

評価項目		適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1			
7-1)	学生募集活動は適正か	④	3	2	1
7-2)	学生募集に教育成果は反映されているか	④	3	2	1
7-3)	入学選考の時期・基準・方法は適正か	④	3	2	1
7-4)	納付金は妥当なものとなっているか	④	3	2	1

本校の学生募集活動は、オフィシャルサイトや各種 SNS からの情報発信に加え、各種進学情報誌への掲載、高校内や各都市で実施される会場説明会等に参加し行っている。志願者を対象にオープンキャンパスを実施し、希望する学科と学習内容とのマッチングができるよう個別相談なども行っている。

入学選考・時期・基準・方法は、加盟する東京都専修学校各種学校協会での取り決め及び監督官庁である渋谷区の指導に基づき、適正に行っている。高等学校推薦型選抜・一般選抜に加え、総合型選抜・自己推薦型選抜・学校推薦型選抜など多くの選考方法を採用し適正に実施している。

納付金額については、本校が提供する教育内容、施設から算出して、毎年同分野他校との比較検討を行い適正な金額であると認識している。また、支払い時期は募集要項に明記している。

### ◎学校関係者評価委員会コメント・質疑

※「学生募集と受け入れ」については評価者からのご意見はありませんでした。

## (8) 財務に関すること

評価項目		適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1			
8-1)	中長期的に財務基盤はどうか	④	3	2	1
8-2)	予算・収支計画は有効かつ妥当か	④	3	2	1
8-3)	会計監査は適正に行われているか	④	3	2	1
8-4)	財務情報公開の体制整備はできているか	④	3	2	1

引き続き経費全体の見直しを行い財務基盤の強化に努めている。一定数の入学者の確保と退学者を減らすことにより、より高水準の財政基盤の確保を目指している。

資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表、財産目録等の主要な財務諸表を参考とし、次年度以降の収支計画予算を編成している。年度予算は、本校の目的・目標及び事業

計画に鑑みて、有効かつ妥当なものである。

本校では、監査法人による会計調査を受けており、私立学校法および寄附行為に基づき選任された2名の監事が財務会計監査を実施している。

財務諸表等は事業報告書と共に理事会に提出し、承認を得ている。財務情報の公開をオフィシャルサイトにて行っている。

◎学校関係者評価委員会コメント・質疑

※「財務に関すること」については評価者からのご意見はありませんでした。

(9) 法令順守に関すること

評価項目		適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1			
9-1)	法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④	3	2	1
9-2)	個人情報に関して、その保護のための対策がとられているか	④	3	2	1
9-3)	自己評価の実施と問題点について改善に努めているか	④	3	2	1
9-4)	自己評価結果を公表しているか	④	3	2	1

本校は、関連法規についての国や地方自治体からの通達にも速やかに対応し事務処理を行っている。個人情報の保護については、入学時に配布する「学校要覧」に個人情報の取り扱いについて記載し、「個人情報確認同意書」の提出を義務付けると共に、職員に対しては個人情報の取り扱いに関して細心の注意を払うよう指導している。

自己評価は、毎年度実施しており、その結果をオフィシャルサイトにて公表し、職能教育機関として改善・改革を推進すべく努力している。

◎学校関係者評価委員会コメント・質疑

※「法令順守に関すること」については評価者からのご意見はありませんでした。

(10) 社会貢献に関すること

評価項目		適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1			
10-1)	教育資源や設備を活用しての社会貢献はなされているか	④	3	2	1
10-2)	学生のボランティア活動に対する支援はどうか	4	③	2	1
10-3)	地域に対する公開講座・教育訓練の受託等を積極的に実施しているか	④	3	2	1

社会貢献を通して地域から信頼される学校を目指し、町内会等の実施する各種祭事・地域行事に積極的に参加している。また、各種業界団体が行う研修会や試験会場・スクーリング会場等へ教室などの学校施設を開放している。

学生のボランティア活動は、社会性や協調性を養うための重要な活動と位置づけ、様々な支援を行っている。これまでの実績として、広島県神石高原町の XR スクール・渋谷音楽祭・多摩南部地域病院ホスピタルアート・川崎フロンターレファン感謝祭似顔絵イベント・伊賀流忍者グッズデザインコンテスト(三重県伊賀市)等多数ある。

◎学校関係者評価委員会コメント・質疑

※「社会貢献に関すること」については評価者からのご意見はありませんでした。

(11) 国際交流に関すること

評価項目		適切…4	ほぼ適切…3	やや不適切…2	不適切…1
11-1)	留学生の受け入れ・派遣について戦略を持って行っているか	④	3	2	1
11-2)	留学生の受け入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	④	3	2	1
11-3)	留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	④	3	2	1
11-4)	学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	④	3	2	1

留学生の受け入れについては、日本語学校の成績・出席状況を確認すると共に本校独自の日本試験を実施しており、日本語能力を身につけている留学生のみ入学を許可している。本国からの直接受け入れも行っているが、日本語能力試験 N2 を取得しており、日本在住の留学生と同様に本校独自の日本語試験に合格した留学生のみ受け入れている。在籍管理については、適宜入国管理局への報告を行っている。関連する研修会への担当者の参加も積極的に行っている。

留学生の日本国内での就職支援を行っており、多くの留学生が日本で就労している。また学習の成果として様々なコンテストなどに参加し、実績を残している(SEGA「戦国大戦 TCG イラストコンペティション」優秀賞等)。

◎学校関係者評価委員会コメント・質疑

※「国際交流に関すること」については評価者からのご意見はありませんでした。

#### 4.学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

##### (1) 教育評価

教育評価は概ね適切という判断であるが、いくつかの点において課題や改善の余地がある。超実践教育という教育理念に関しては概ね実現されてきたが、今後については、社会情勢が大きく変化している現在の状況を踏まえた対応が必須である。

学生対応については、個別相談の更なる充実、保護者や卒業生との連携など、これまで以上に改善できる部分がある。留学生については、まずは入学検討者への対応にこれまで以上に配慮しつつ、在学生についてはビジネス日本語の授業等を設定し授業内容の把握や就業支援につなげることが期待される。また、来日に向けた支援も可能な範囲で実施する必要があると考える。

##### (2) 財務評価

令和4年度の入学者数は前年度よりも増加した。適正な予算・収支計画に基づき、安定的な学校運営が行われていると判断している。

##### (3) 一般的評価

専門学校日本デザイナー学院は、クリエイティブ教育の専門学校として創立58年目を迎え、創立以来多くの卒業生を、グラフィックデザイン・マンガ・イラスト・インテリアデザイン等の産業界と生活文化に携わる有能なクリエイターとして輩出している。社会人としての自覚と責任を持たせる指導を行いながら、クリエイティブ業界のニーズに対応するために毎年カリキュラムの改良にも努めている。

新型コロナウイルス感染流行も落ち着いてきたため、外部企業や地方自治体と協力した産学協同、病院での作品展示等のボランティア活動が徐々に再開してきていると考えている。

また、教育環境の整備、設備の充実をはかることができた。これにより、これまで以上に実践的な授業を受けられることで学生の学習意欲がより高まり、さらには入学希望者・保護者からも好評を得ている。

## 5.学校関係者評価委員の評価結果について

上記報告書は、学校関係者評価委員として、  
妥当な評価であることを確認し、認めます。

令和5年6月21日

### 【学校関係者評価委員会】

委員(業界関係者代表)

川村 順一(文京学院大学 経営学部 客員教授)

委員(業界関係者代表)

長田 智行(株式会社シフカ 代表取締役)

委員(地域代表)

伊藤 直子(東急株式会社 渋谷開発事業部 開発計画グループ)

委員(卒業生代表)

楠原 幸時(校友会 副会長)